

平成23年 5月26日(木)
国土交通省関東地方整備局
鹿島港湾・空港整備事務所

記者発表資料

平成23年度 鹿島港湾・空港整備事務所の事業概要について

平成23年度の鹿島港湾・空港整備事務所の事業概要は以下のとおりです。

国内有数の鹿島臨海工業地帯における原材料及び製品の海上輸送基地として重要な役割を担っている鹿島港では、産業競争力を強化するため、大水深岸壁をはじめ防波堤の整備を進めています。

最新鋭の海上コンテナターミナルを有する茨城港常陸那珂港区では、北関東地域と海外・国内の生産・消費地を結ぶ新たな国際物流の拠点として、国際コンテナや RORO 対応のターミナル及び防波堤の整備を実施します。

4月1日の閣議において財務大臣から公共事業・施設費について5%を一つの目処として、執行をいったん留保するとの方針が示されたことから、全体として原則5%程度の予算執行が留保されることとなります。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ
茨城県政記者クラブ
横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局鹿島港湾・空港整備事務所

副所長 ^{あべ}阿部 ^{じろう}二郎

TEL 0299(84)7712

FAX 0299(84)0057

かしまこうがいこうちくこくさいぶつりゅうせいびじぎょう
鹿島港外港地区国際物流ターミナル整備事業

H23年度事業費：28.5億円
(茨城県)

事業の概要

鹿島港は石油化学コンビナート企業群、製鉄関連企業群などを擁する鹿島臨海工業地帯の原材料及び製品の海上輸送基地として発展しており、平成19年には木材関連工場の新たな進出もなされ貨物需要の増大及び物流の効率化に対応するための公共岸壁の整備が急がれます。

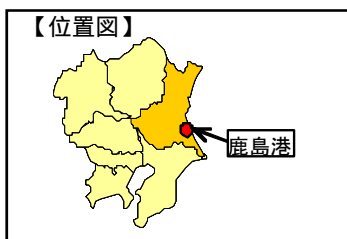
鹿島港の玄関である外港地区においては、外貿貨物の増加と船舶の大型化に対応するために、新たな国際物流ターミナルの整備を行います。

平成23年度予定

防波堤(中央)及び(南)の延伸、岸壁エプロン舗装及び航路泊地の浚渫を実施します。

事業の効果

国際物流ターミナルの整備により、大型船舶の利用が可能となって物流効率化により地域産業の国際競争力の向上が図られます。また、防波堤の延伸整備により港内静穏度の向上を図り、船舶の入出港の安全と岸壁での荷役作業の効率性が確保されます。



平成23年度 鹿島港 事業概要

■ 鹿島港の概要

石油化学コンビナート企業群、製鉄関連企業群、穀物飼料企業群などを擁する鹿島臨海工業地帯において、鹿島港は立地企業の原材料や製品の海外輸送基地として重要な役割を担っています。

また、近年の企業の事業再編・効率化や物流体系の見直しなどの流れから、東京へ1時間余りで連絡可能な鹿島港は、これまで京浜一帯で扱われていた一般公共貨物のシフト先としての役割も期待されています。

平成18年2月には北公共ふ頭がガントリークレーンを備えた多目的バースも供用開始され、首都圏の物流を担う物流港湾として、今後増加が予想される公共貨物や大型船舶に対応するため、公共ふ頭の整備が進められています。

■ 鹿島港の沿革

1963(昭和38)年 重要港湾に指定される

1965(昭和40)年 中央航路掘込開始

1969(昭和44)年 第1船入港

開港法に基づく開港となる

検疫法に基づく指定港になる

1978(昭和53)年 南公共埠頭一部供用開始

1991(平成3)年 南公共埠頭完成

1993(平成5)年 鹿島港外港地区(-14m)岸壁建設に着手

1994(平成6)年 北公共埠頭建設着手

1999(平成11)年 北航路掘込み開始

2002(平成14)年 北公共埠頭一部供用開始

(-10m岸壁、1バース目)

2004(平成16)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、2バース目)

2006(平成18)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、3バース目)

2008(平成20)年 内航フィーダー航路開設 横浜港で00CLの

東南アジア航路に接続

2010(平成22)年 重点港湾に指定される 国際バルク戦略港湾へ応募

2011(平成23)年 外港定期コンテナ航路再就航

■ 入港船舶隻数(平成21年)

13,249隻

■ 鹿島港の港湾空間の規模(平成18年3月)

港湾区域 5,212ha

臨港地区 2,494ha



開発前の海岸線



昭和40年 中央航路掘削開始



昭和43年頃の 鹿島港中央航路開削の様子

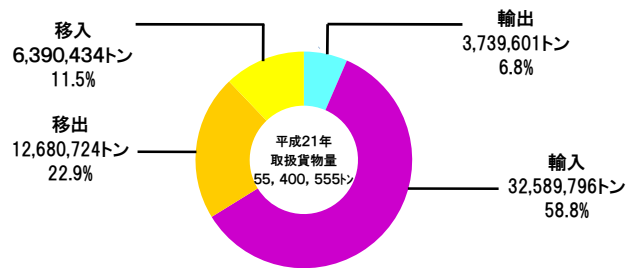


現在の 中央航路

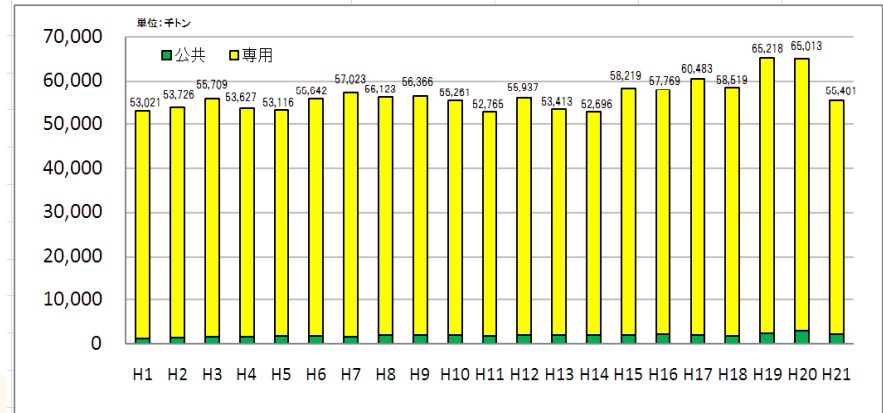


現在の 鹿島港全景

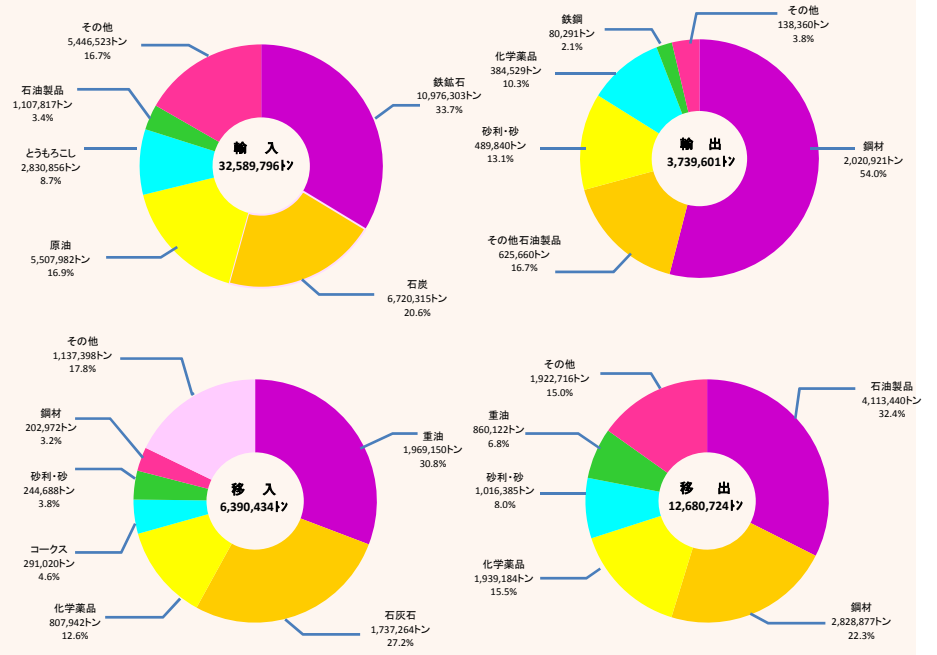
■ 貨物別構成



鹿島港取扱貨物量の推移



平成21年度鹿島港取扱貨物の品種



原油タンク



製鉄工場



穀物サイロ



石油コンビナート



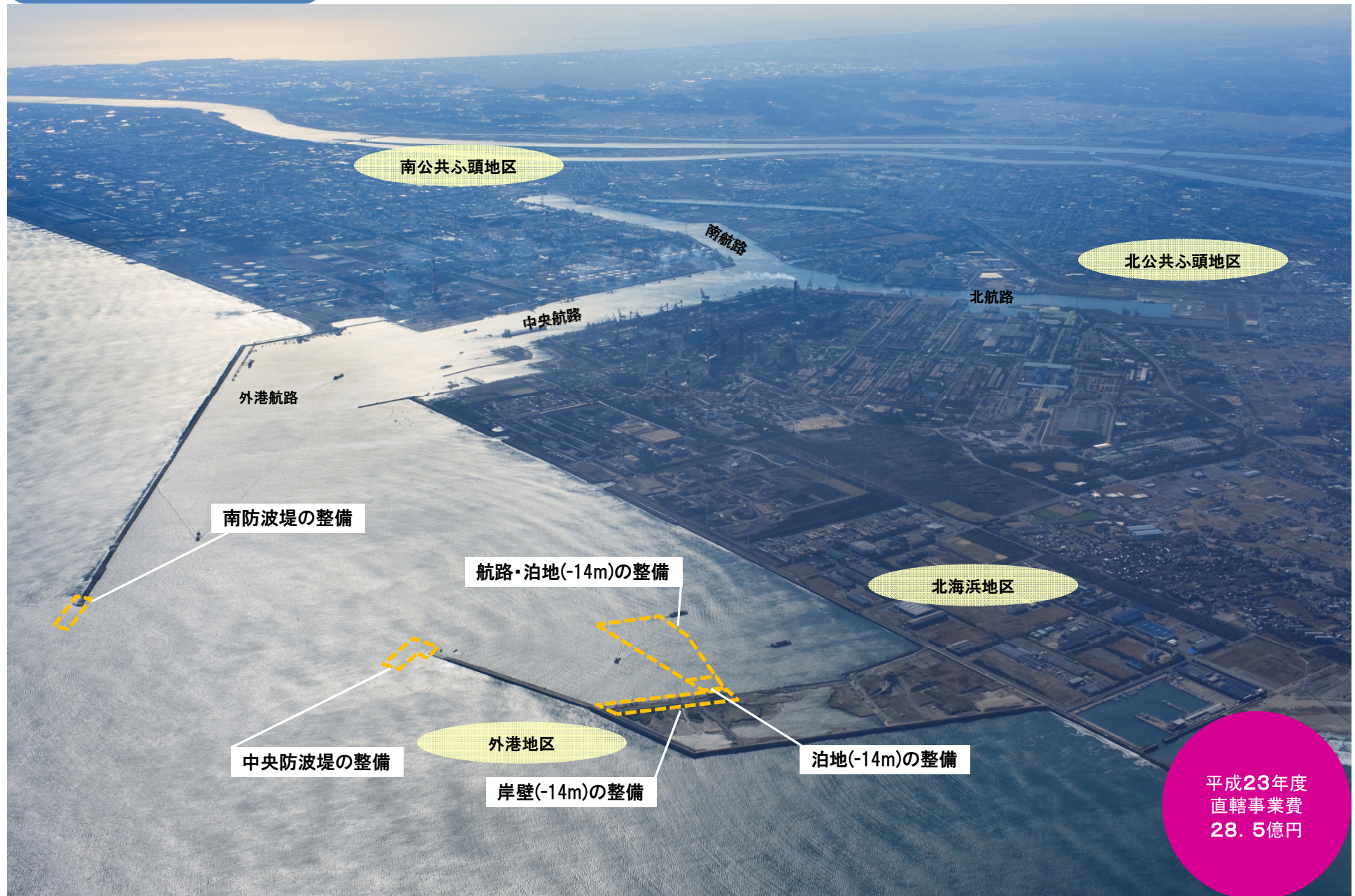
国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所

TEL:0299-84-7711 FAX:0299-82-1673

<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kashima/>

平成23年度の整備概要

- 貨物船の大型化に対応し、臨海工業地帯の産業競争力を強化するため、外港地区において、岸壁(-14m)、航路・泊地(-14m)、泊地(-14m)等を整備します。
- 外港地区や港内の静穏度を向上させるため、中央防波堤・南防波堤の整備を促進します。



平成23年度
直轄事業費
28.5億円

いばらきこう ひたちなかこうく がいこうちくこくさいかいじょう どうせいびじぎょう
茨城港常陸那珂港区外港地区国際海上コンテナターミナル等整備事業

H23年度事業費： 1.5億円
(茨城県)

事業の概要

北関東地域（茨城県・群馬県・栃木県）は、近年、首都圏の製造業の拠点として工場立地が進展（平成22年1月～12月の工場立地面積が262ha、工場立地件数が117件）し、今後企業の生産・消費活動の拡大に伴い、当地域を発着地とする国際・国内物流需要の増大が見込まれています。

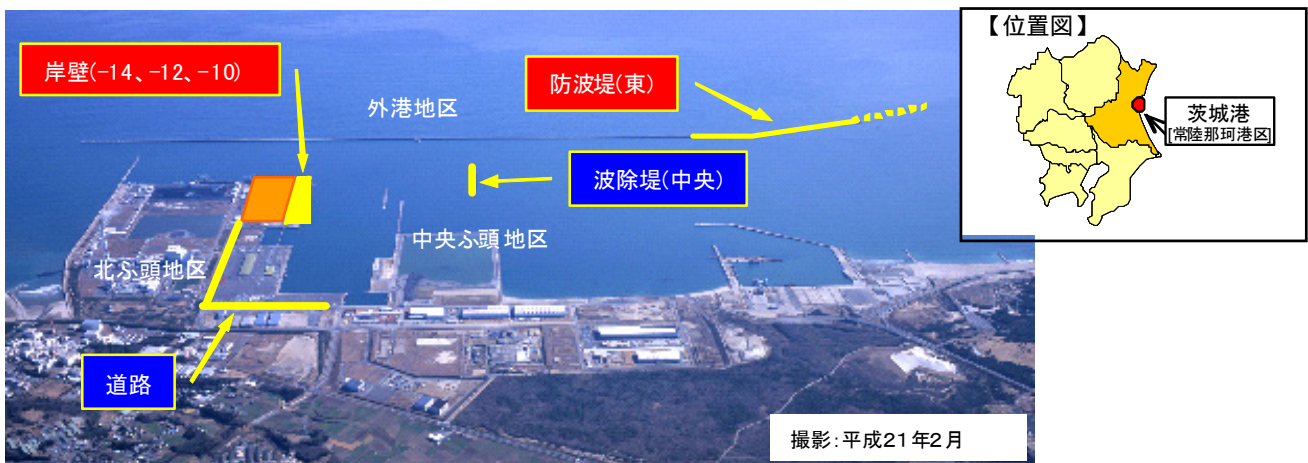
このため、常陸那珂港区では、北関東自動車道を始めとする背後道路ネットワークとのアクセスの良さを活かし北関東地域と海外・国内の生産・消費地を結ぶ新たな国際物流の拠点として、また、企業の生産活動を展開する拠点として機能するため、国際コンテナやRORO対応のターミナル等の整備を実施します。

平成23年度予定

防波堤（東）の工事を実施します。

事業の効果

ターミナル等の整備により、背後工場より大型建設機械が自走して直接船積みができることから、物流コストの低減・CO2削減が期待されるほか、臨海部への企業立地が進み企業投資の誘発や雇用の創出が図られ、地域経済の活性化が期待されます。



平成23年度 茨城港 常陸那珂港区

事業概要

■常陸那珂港区の概要

北関東自動車道の整備(平成23年3月19日に関越自動車道までの区間が開通)により、常陸那珂(0から栃木県宇都宮市までは約1時間、群馬県高崎市までは約1時間30分で行くことができます。
最新鋭の海上コンテナターミナルを有する茨城港(常陸那珂港区)は、栃木県を経て群馬県に至る北関東自動車道整備と併せ、東西方向の新しい物流ルートを形成し、北関東を中心とした首都圏における物流の合理化再編と発展に大きく貢献していくものと期待されています。



昭和37年



平成18年8月



平成22年12月 常陸那珂港供用開始地



現在の北ふ頭地区

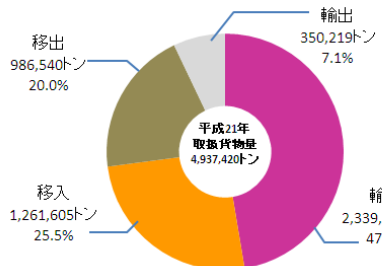
■常陸那珂港区の沿革

- 1983(昭和58)年 重要港湾に指定される
- 1992(平成4)年 東防波堤1号掘削付
- 1989(平成元)年 作業基地整備着工
- 1993(平成5)年 北ふ頭地区着工
- 1998(平成10)年 北ふ頭地区内貿バース供用開始第1船入港
北防波堤工事着工
- 2000(平成12)年 北ふ頭地区外貿バース供用開始
- 2001(平成13)年 中央ふ頭地区本格着工
関税法に基づく開港となる
- 2003(平成15)年 常陸那珂火力発電所本格稼働開始
- 2006(平成18)年 中央ふ頭耐震強化岸壁(-7.5m)供用開始
- 2008(平成20)年 東北3港(日立港・常陸那珂港・大洗港)が統合し茨城港となる
- 2009(平成21)年 中央ふ頭地区岸壁(-9m)供用開始
- 2010(平成22)年 重点港湾に指定される
- 2011(平成23)年 北九州航路を日立港区からシフト

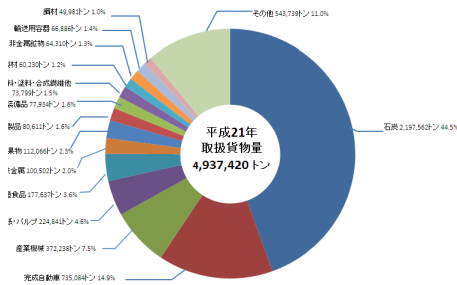
■常陸那珂港区の港湾空間の規模(平成19年5月)

- 港湾区域 2,232ha
- 臨港地区 340ha
- 入港船舶隻数(平成21年) 979隻

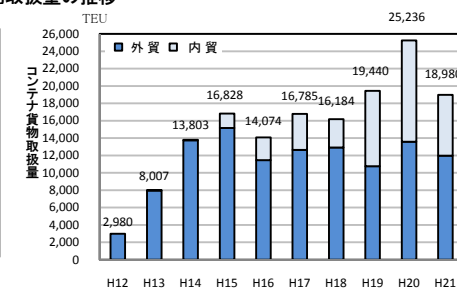
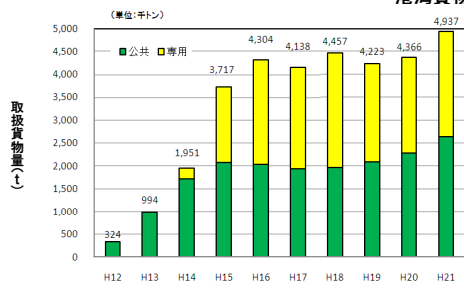
輸出入構成



品目別構成



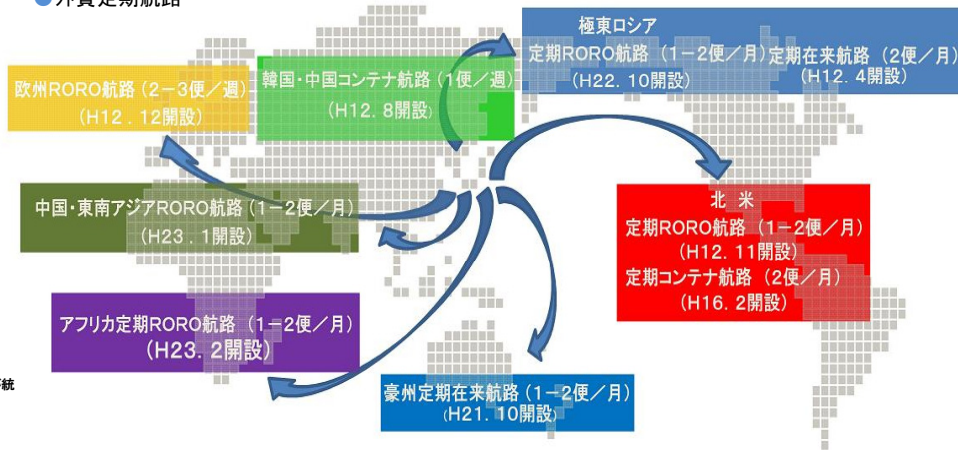
港湾貨物取扱量の推移



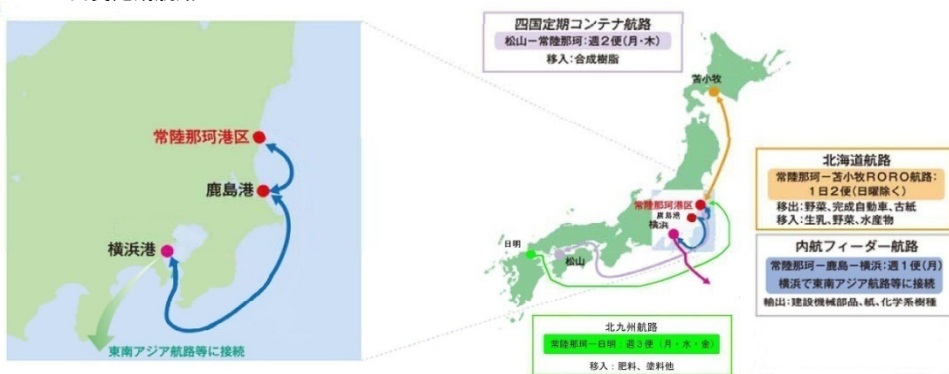
国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所
TEL:0299-84-7711 FAX:0299-82-1673
<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kashima/>

常陸那珂港区の定期航路

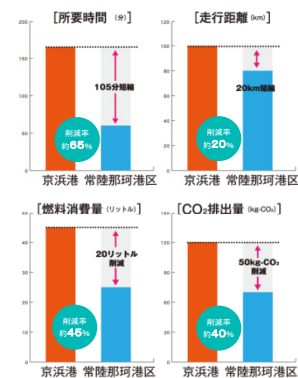
●外貨定期航路



●内貨定期航路



●茨城港は物流コストの削減とともにCO₂削減も期待できます。

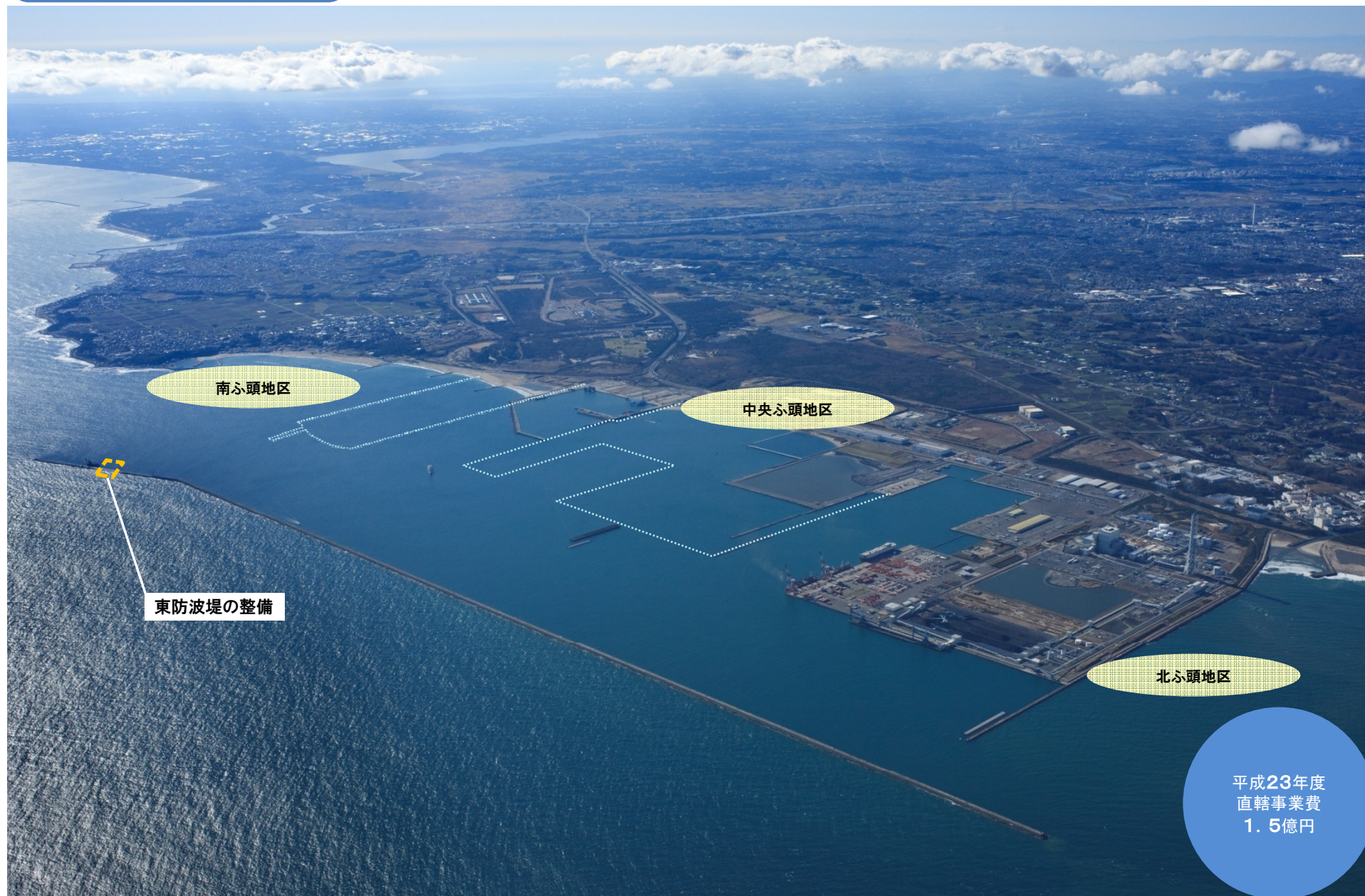


北関東自動車道をはじめ、格段に良くなる道路網により、茨城港「常陸那珂港区」を利用した場合、北関東地域からの所要時間・走行距離の短縮・環境負荷の低減及びコストの削減が期待できます。

平成23年度の整備概要

●船舶の荷役が行いやすい静穏な港にするため、東防波堤の完成に向けて上部工(計画6,000mの内5,400m)を実施します。

平成23年度事業概要 茨城港 常陸那珂港区



南ふ頭地区

中央ふ頭地区

東防波堤の整備

北ふ頭地区

平成23年度
直轄事業費
1.5億円